

# 聖書日課『からし種』 2026.1.25－2.1

1月25日 (日)  出エジ プト記 37章	「ベツアルエルはアカシヤ材で箱を作った。寸法は縦2・5アンマ、横1・5アンマ、高さ1・5アンマ」(1節)。ベツアルエルは掟の箱や机、燭台、祭壇などを、先の25章に記された「設計図」通りに忠実に製作した。求められていることは「神の設計図」(ヘブライ11・10参照)への信頼と忠実。毎週の主日礼拝はこの「神の設計図」に心の照準を合わせること。
26日 (月)  出エジ プト記 38章	「仕事、すなわち聖所のあらゆる仕事に用いられた金の総額は、奉納物の金が聖所のシェケルで29キカル730シェケル…」(24節)。幕屋建設の材料は「心動かされ心からする者」(35・21)の献げものが集められ、天幕から祭具まですべてが民の奉仕で製作された。「聖所を造る」とは、私たちの信仰が「心動かされ心からするもの」となっているかが問われるのだ。
27日 (火)  出エジ プト記 39章	「モーセがそのすべての仕事を見たところ、彼らは主が命じられたとおり、そのとおり行っていたので、モーセは彼らを祝福した」(43節)。あの不信仰な民が幕屋建設準備にこれだけ誠実に取り組んだことに驚かされる。彼らは最初の十戒を受け取ることに失敗して大反省をしたが、その深い悔い改めが幕屋建設への誠実な献身につながったのだろうか。
28日 (水)  出エジ プト記 40章	「雲は臨在の幕屋を覆い、主の栄光が幕屋に満ちた」(34節)。主は、荒れ野の旅のすべての日をイスラエルの民と共に歩んでくださった。しかし、その主の栄光がいつも彼らの目に見えていたわけではない。聖霊の注ぎと聖霊の働きの前に私たちが低くされた時、私たちは主の栄光を拝する幸いにあずかる。今日、その聖霊の助けを祈り求めている。

メール配信登録メール [senfkorn.obc@gmail.com](mailto:senfkorn.obc@gmail.com)

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

29日 (木)  レビ記 1章	「牛を焼き尽くす献げ物とする場合…奉納者は…手を献げ物とする牛の頭の上に置くと、それは、その人の罪を贖う儀式を行うものとして受け入れられる」(3－4節)。献げ物とする牛の頭に手を置く際、神の前に自らの罪を覚え、牛の命のぬくもりを感じながら祈りをささげる。犠牲の牛と一体となることを通して、人は神の前に正しく立つ信仰を学ぶのだろうか。
30日 (金)  レビ記 2章	「穀物の献げ物にはすべて塩をかける。あなたの神との契約の塩を献げ物から絶やすな。献げ物にはすべて塩をかけてささげよ」(13節)。塩は「決して腐敗しないもの」として「永遠に変わらない神の真実」を意味した。「主イエスの真実」という「塩」が備えられたゆえに、私たちはもはや自分で「塩」を用意する必要はない。すべての献げ物に賛美を添えてささげよう。
31日 (土)  レビ記 3章	「奉納者が献げ物とする牛の頭に手を置き、臨在の幕屋の入り口で屠ると、…祭司たちは血を祭壇の四つの側面に注ぎかける」(2節)。献げ物の牛の血は尊い犠牲として祭壇に注ぎかけられた。私たちと神との関係が「真の協働者の関係」となるために尊い犠牲が払われていることを、私たちはもっと緊張感をもって繰り返し覚えていく必要があるのではないか。
2月1日 (日)  レビ記 4章	「これは過って主の戒めに違反し、禁じられていることをしてそれを一つでも破った時の規定である」(2節)。私たちは個人としても特定の役職にあっても、また共同体全体としても「過ちを犯す者」として主に受け容れられている。だからこそ互いに過ちを放置せず、丁寧に繰り返し主の導きを求めたい。律法では主への「献げ物の儀式」がその表現なのだろう。